

—はい、今日でした、明日結果が分かります。

★ ★ ★ ★

スシとペペは墓地にいた。その日の天候は素晴らしかった。晴れ渡り青空で雲一つ無かった。すべてのマスコミのメディア関係者が墓地にやって来た。新聞記者、ラジオのアナウンサー、コメディアン、映画の監督、俳優等・・・。本当に驚くばかりだった。警察の検事マリアノ ロメラレスもまた居たのだった。ペペにとってこのことはとても不思議だった。フランコの時代の間、ヘスス オネストは独裁政治に対して、民主主義の側に立ち厳しい記事を書いて“赤”と咎められ3回か4回拘留された、ロメラレスはそのことに警察官として関わった人物だった。“ロメラレスはお悔やみを述べるために、ここに来たのでは無いとペペは考えた。もしかしてここに居るのは何か奇妙なことがあるのだ。”

スシはとても神経過敏になっている、彼女にとって普段通りではない、とても静かだ。

—スシ、どうしたんだい。

—いいえ何でもありません。ボス、葬儀は私を悲しくさせます。その上心が動揺しています。貴方もご覧のようい何と大勢の人でしょう。このような状況を見せられますと、非常に印象的です。友情の価値を理解させられます・・・。

ペペはスシが道理に叶っていると考えた。スシは彼のために秘書（秘書以上の人物）としてとても素晴らしいし、彼の良い友人である、今迄も何も言うことは無かった。

★ ★ ★ ★

今日は土曜日である。ヘススが埋葬されて三日になる。毎週土曜日、ペペはサン・ミゲル市場に（を利用するために）行く日になっている。